

令和3年度  
社会福祉法人 信和会  
第1回 理事会 資料

日 時 令和3年5月22日 (土)

第1号議案

令和2年度

# 事業所別事業報告

障害者支援施設 穴山の里

多機能型事業所 わ〜く穴山の里

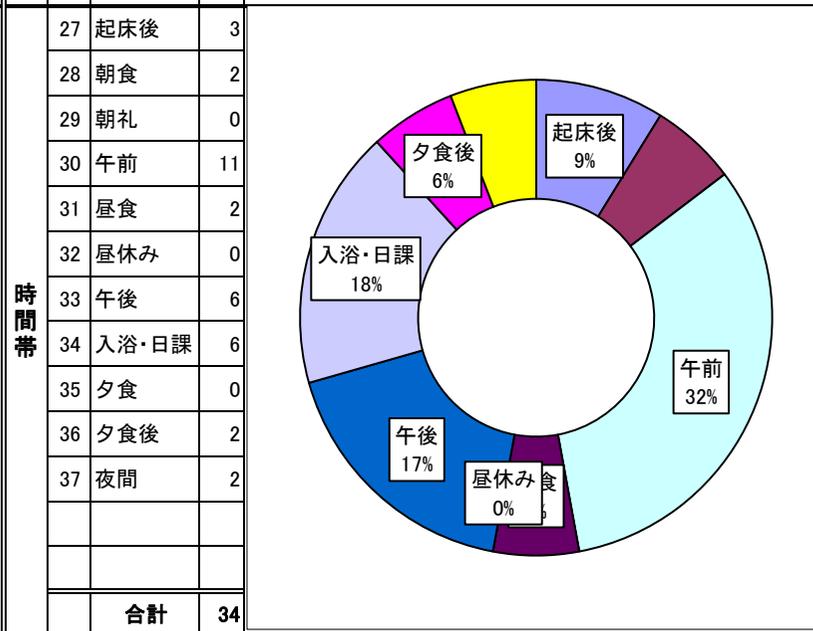
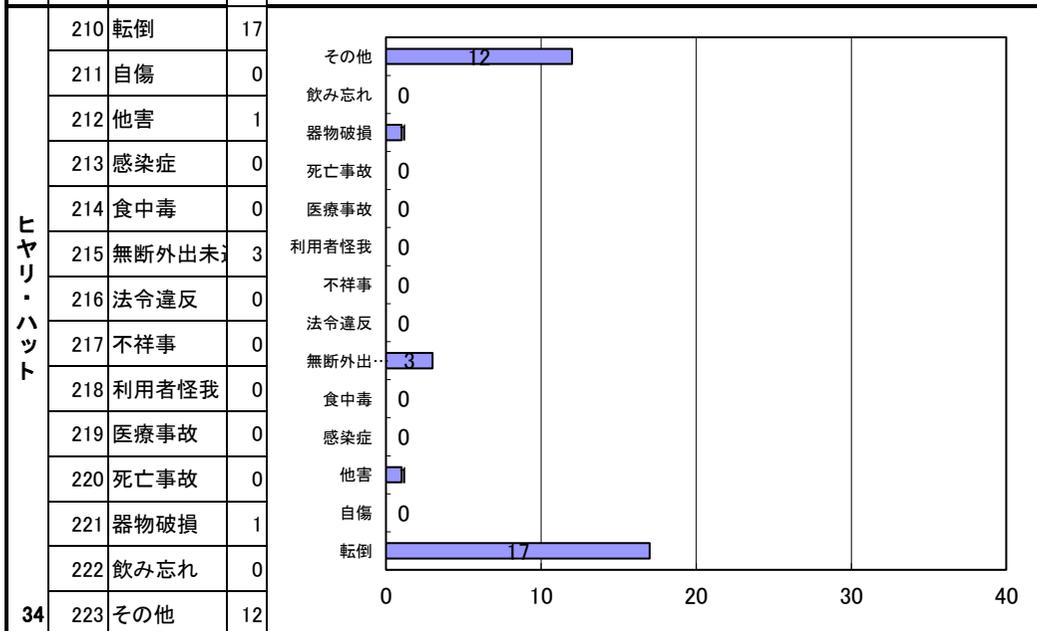
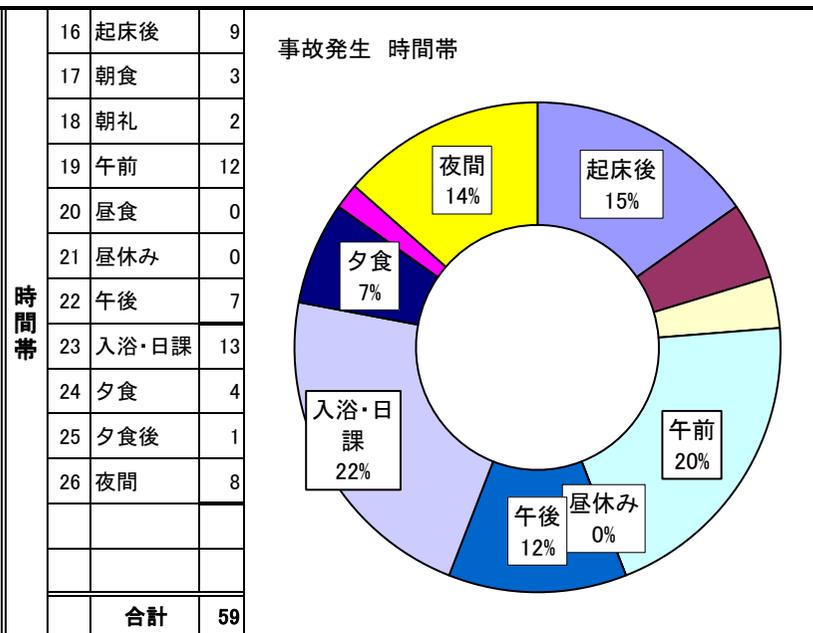
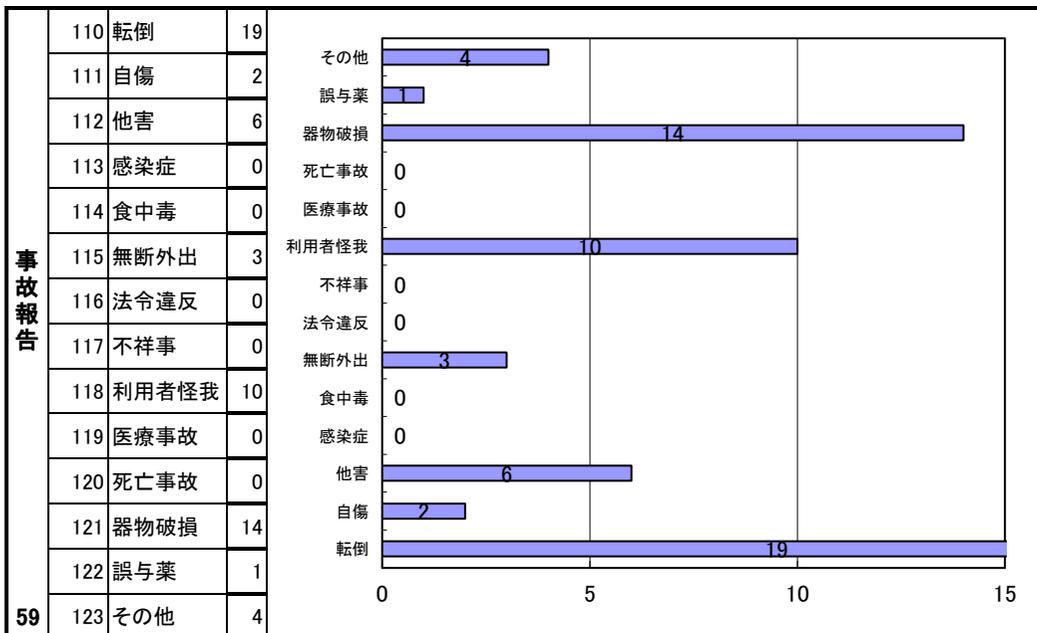
共同生活事業 グループホーム・ケアホーム

特別養護老人ホーム 穴山の杜

穴山の杜 短期入所生活介護

相談支援事業所 さくら

### 令和2年度 事故・ひやり状況一覧(グラフ)



## 令和 2 年度

### 障害者支援施設 穴山の里 事業報告

#### 1. はじめに

「真の福祉を追求していこう」という、法人の運営方針のもと、“利用者の自立と社会活動への参加を促進する”及び“利用者の能力や特性、環境に即した適切な支援を行う”ことを施設の運営方針とし、下記の5項目の運営目標を掲げ、諸活動を展開してまいりました。

本年度は、年度末に新型コロナウイルスの感染予防措置のため、外部との交流、来客者の受け入れ、外出、研修等を全て中止しています。また、利用者・職員の衛生管理、施設内の消毒、清掃の徹底等も実施しており、更に、利用者の三密を防ぐため、グラウンドや鳳凰会館での日中支援等を実施しています。また、コロナウイルス感染症のマニュアルの作成し発生時の対応、職員への周知を行いました。

#### 2. 運営目標に対する報告

##### ①施設経営基盤の安定化

穴山の里は、昭和61年5月に開設し、35年目を迎えようとしています。東京都の都外施設としての認可を受け、東京都から様々な補助を受けることにより、経営は安定しております。特に昨年は、コロナウイルス対策費の補助、マスク等の物資を受け取りました。

利用者の入退所ですが、コロナウイルスの関係から入退所が進まずに定員50名のまま1年間過ごしました

なお、短期入所と通所サービスにつきましては、施設内の感染防止のため受け入れを控えました。

##### ②利用者本位の支援

利用者及びご家族に満足していただける、きめ細やかな利用者支援を目指し、生活介護では利用者1.7名に対し、職員1名の人員配置体制を基本とし、夜勤も職員3名体制で実施しています。

支援関係では、利用者個々の、個別支援計画を作成し、利用者ひとり一人の特性に合わせて支援を展開しており、特に、強度行動障害をもつ38名の利用者に対しては、行動特性に対応した支援マニュアルを作成し、支援者養成研修を受講した職員による、個別ケアも実施しています。

また、日中活動では、高齢化に伴い班の見直しを行い、利用者一人一人にあった個別活動の実施、余暇活動を充実させ、各利用者のできることを見つけのばしていけるように努めました。

クラブ活動では、外部講師（ボランティア）の受け入れを行わずに利用者職員との活動となりました。

利用者の安全確保ですが、「サービス改善・事故防止委員会」を毎月開催し、原因の究明と再発防止策を講じるなど、事故の減少に向けた取り組みを実施しています。本年度の事故報告件数は59件であり、昨年度の64件に比べ5件減少しました。事故報告中で最も多かった内容は、転倒でありこれは利用者の高齢化による運動器機能の低下等が原因と思われるので、対応策として、リハビリ活動を積極的に実施しております。その他は、器物破損が多くなっています。

なお、事故予防のため、ヒヤリ・ハット報告が重要な情報となりますが、今年度は34件の報告がありました。これは事故には至らないものの、事故に直結してもおかしくないリスクへの気づきとなるため、職員間で共有する中で、事故の未然防止のためにつなげ、事故のない安全で快適な施設づくりに努めてまいります。

### ③職員の資質向上

より充実した利用者支援を実施するため、職員が年度初めに“目標管理シート”により各自の業務目標を設定し、更に支援員は、担当利用者の個別支援計画を達成するための目標管理を行い、自己研鑽に励んでいます。

本年度は、コロナウイルス感染拡大に伴い外部研修等が中止となりましたが、内部研修を毎月実施いたしました。

尚、職員の資格取得にも積極的に支援し、取得しやすい職場環境を目指し本年度は、4名が介護福祉士資格を取得しています。

### ④地域との融合

地域に密着した施設づくりを念頭に、前年度に引き続き、鷲宮神社、穴山町ふれあいホール、さくら公園等の清掃、地域の側溝の掃除などの奉仕活動を行いました。様々なイベントが中止となり思うような活動を行うことはできませんでした。

### ⑤大規模災害と防災

月毎に訓練項目や重点指導事項を定め、避難訓練を実施すると共に、7月に“職員の非常召集訓練及び夜間避難訓練”を実施しました。

また、大規模災害発生時の“鳳凰会館”の役割りを蕨崎市とどのようにするのかは、打ち合わせは行ったのですが、蕨崎市からの回答待ちとなっています。

### 3. おわりに

昨今、障害福祉施設では、利用者の高齢化・重度化が進んでおり、当施設におきましても、例外ではなく、その対応に苦慮しております。

そのため、今後も職員教育の更なる充実を図ると共に、強度行動障害者支援にあたっては、専門的な施設内外の研修等を充実し、職員ひとり一人が、福祉のプロとして、的確な対応が出来るよう、努めてまいります。

また、去年は、職員の職務中の事故が増加しました。なぜ増加したのかを検討し、職員のスキルアップを図りながら、働きやすい環境の整備を目指します。

## 令和2年度

### 障害者支援施設 穴山の里 主な出来事

行事・出来事	
4月1日	辞令交付式／新人職員研修
11日	なかよし会 誕生日会・ひな祭り
5月5日	なかよし会 端午の節句
6日	なかよし会 施設内ピクニック
9日	なかよし会 母の日プレゼント作り
23日	なかよし会 誕生日会
6月6日	なかよし会 父の日プレゼント作り
13日	なかよし会 誕生日会
19日	さくらんぼ狩り
22日	さくらんぼ狩り
7月4日	なかよし会 誕生会・七夕
7月7日	夜間避難訓練 実施
8月10日	夏季家庭訓練中止
12日	ミニ夏祭り
14日	東京都指導監査
20日	なかよし会 サマーレクリエーション
22日	なかよし会 誕生日会
9月12日	なかよし会 敬老の日プレゼント作り
19日	なかよし会 誕生会
10月1日	なかよし会 十五夜
17日	なかよし会 誕生会
27日	穴山の里文化祭
29日	なかよし会 十三夜
11月3日	穴山町文化祭、山梨県障がい者文化展 (7日まで)
4日	葦崎小学校大豆収穫体験
14日	なかよし会 誕生日会
12月12日	なかよし会 誕生日会
19日	なかよし会 クリスマス会
28日	冬季家庭訓練中止



# 令和2年度

## わ〜く穴山の里 事業報告

わ〜く穴山の里は、平成16年に開所し17年目を迎えました。コロナ禍であっても出来る事を模索し、障害のある人の地域で生活し続けるために必要な社会資源として運営して参りました。

### 1 就労支援収入・給付収入の安定化

2020年度は就労支援収入を1,150万円に目標設定し、1,269万円の作業収益となりました。賞与も2回お渡しできており、平均工賃月額が¥31,054でした。

在籍者数については、新規利用者が2名増え、就労B20名の定員に対し22名、生活介護定員12名に対し12名、計34名の方が利用されております。今後は利用日数と稼働率の安定に向け取り組みます。

### 2 利用者本位の事業展開

コロナ禍で仕事の発注が激減した企業もありましたが、コロナに特化した仕事やステイホームで好調な企業と提携していたこともあり、後半からは繁忙期が続きました。選り好みをせず、どのような仕事もする職員の意識が、次のステップを考える利用者によく影響し雰囲気も変わりつつあります。また、生活介護では高齢化に伴い機能や精神的な減退の見られる方も増え、今後の方向性を模索する中で、個々の状況を把握し、繋げる役割を担えることを確認して進めております。

### 3 職員の質の向上

1月より、穴山の里・わ〜く・共同の障害サービス3事業所合同で事業所交流体験をスタートしました。他の事業所の業務や役割を知ることで自分の役割を理解することを目的としており、3事業所を1日かけて見学・体験し、次の日に振り返りを行います。参加職員からは沢山の気づきがあり、仕事への向き合い方に変化が見られるようになりました。

また、快適な職場環境作りのため、年2回の面談を実施しました。業務での困りごとや要望に浴えるよう仕組み作りや改善に取り組み、年度末に職員に報告致しております。職員の声が反映されることを目に見えるよう取り組むことで、職員が発信しやすい職場を目指します。

#### 4 相談支援事業者との連携

菰崎市内の利用希望者の情報をいただき、スムーズに利用に繋げることができた事例がありました。見学⇒体験⇒利用希望の確認を行う事を相談支援事業所にもご理解いただき、丁寧に対応することにより新規利用者の獲得に繋がっております。利用定員の確保や課題の共有や取り組みにおいて、都度相談する機会をいただきながら進めることが出来ました。

#### 5 「知る機会」への啓発活動

市内中学・高校の職場体験はコロナ禍であるため全て中止となりましたが、市内中学2年生対象の「しごと展（河原部社主催）」は実施され、学校に出向き障害サービスの仕事について話をすることができました。また、行事や外出が自粛になる中、地域のラジオ放送局や観光協会と連携し、菰崎市の医療従事者と全ての人にありがとうを伝える「サンクスフェスタ・菰崎」のイベントに参加し、メッセージを発信すると同時に帰省できない利用者のご家族に利用者の元気な姿を届けることが出来ました。更に、菰崎市内の旅館で使用するお客様用のスリッパ入れを共同で企画・作成し、100%リサイクルできる環境に優しい取り組みとして続けております。この取り組みが評価され「マイクロプラスチック削減プロジェクト」のコンテストで会長賞をいただきました。私達も誰かと一緒に何かが出来ると、誰かの役に立つことで、多くの人に知っていただく機会となりました。更に新聞で作るスリッパ入れを用いて菰崎市商工会の「まちゼミ」にも参加し、一般の参加者にわ〜くの利用者が作り方を教える機会をいただきました。コロナ禍であっても地域の方への認知度を上げていくことを意識した1年となりました。

#### ～総括～

コロナの影響が大きく、見通しの持てない中でスタートした2020年度でしたが、関わる多くの人と様々なアイデアを出し、どうやったら出来るかを考え続けることで作業目標をクリアし、今まで以上に知る機会を生み出す結果となりました。特に下半期の繁忙期については、企業担当窓口を配置し細やかな日程調整をおこなったこと、作業工程を見直し細分化を意識したこと、利用者と職員の配置を柔軟に対応し個々の力を引きだせたことが良い結果に繋がったと考えます。今後も日中活動事業所の役割を明確に捉えながら、全職員でアイデアを出し合い、どうやったら出来るかを考えながら進めてまいります。

## 令和2年度

### 多機能型事業所 わ〜く穴山の里 主な出来事

月 日	出来事
4月18日	新年度を迎えてのティータイム (職員含め32名参加)
6月15日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め6名参加)
7月 7日	ともだちの会 セブタイイベント (職員含め39名参加)
8月 5日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め8名参加)
9月 2日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め9名参加)
10月 1日	三周年記念 (職員含め44名参加)
11月 6日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め9名参加)
11月11日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め11名参加)
11月27日	サンクスフェスタ・荳崎FMハッ岳収録イベント (職員含め44名参加)
12月 2日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め12名参加)
12月11日	ともだちの会 周辺清掃 (職員含め12名参加)
12月25日	ともだちの会 クリスマス会 (職員含め47名参加)
1月 5日	ともだちの会 新年の抱負 (職員含め35名参加)
1月 6日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め8名参加)
1月 8日	成人式 (職員含め43名参加)
2月 2日	節分 (職員含め42名)
2月 3日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め9名参加)
2月15日	バレンタインイベント (職員含め34名参加)
3月 5日	ともだちの会 駅舎清掃 (職員含め11名参加)
3月12日	ともだちの会年度末総会 手洗い指導 ホワイトデーイベント (職員含め48名参加)
3月31日	ともだちの会 お花見散歩 (3日間実施 職員含め38名参加)
	※12月17日～ 2ヶ月に渡る医療従事者を含むすべての人にありがとうを伝える、荳崎市のイベント「サンクスフェスタ・荳崎」に観光協会と連携し、展示 (地域交流センターニコリ1階 利用者33名参加)

## 令和2年度

### 共同生活事業 事業報告

令和2年度は、地域生活を営むことを目標として、精神、経済、生活面で自立し、個人の能力を生かしながら地域社会との接点を持ち、人として豊かな日常生活を送れるよう支援を行ってまいりました。

また、利用者支援のあり方として高齢化、重度化への対応も同時に取り組んできました。

現在、当事業所においては利用者全員が40歳以上であり、65歳以上の利用者については全体の3割を超え、さらに3年後には4割近くとなることが予想され、高齢化・重度化が確実に進んでおります。

このことから、今後高齢障害者数の増加やサービス利用のニーズの多様化が見込まれることを踏まえ、障害福祉サービスから介護保険へ切り替わる際の現状と課題について検討してまいりました。そんな中で、2名の利用者様については介護保険サービスへの県内外の移行が行われるなど、申請時期の検討や障害福祉サービスの在り方や方向性が重要な課題となりました。このように、利用者様の生活がより良い環境になるようにサービスの選択についてより一層の検討を重ねた一年となりました。

また、本年度は生活の自立度を見極め、検討を行うために既存の利用者様10名の宿泊体験を随時実施し、その内の7名の利用者様がグループホーム間の居住移動を行いました。現在では生活にも慣れ安定した生活ができております。また、並行して穴山の里の利用者様2名の宿泊体験を行うことが出来、3月末には宿泊体験を済ませた男性1名が4月より第2穴山ハイツへ入居することになりました。

#### 1. 緊急時の対応 バックアップ施設・防災連絡体制（日中・夜間）

障害者支援施設穴山の里及び多機能型事業所わ〜く穴山の里を拠点とし、日中・夜間等の健康管理を含めた連携、支援体制を確保しております。

夜間支援体制については民間警備会社（セコム）と引き続き継続契約を結び、防災・防犯等について連携を図るとともに、安全体制の確保に努めております。

また防災士の資格を有する職員が定期的に水害や地震等様々な災害を想定して防災訓練を実施し、それと同時に避難経路の点検等を行い、備蓄品

についても定期的な点検と補充を行いました。

## 2. 入居者の生活の基本

### 利用者に対する生活支援・相談援助

個別支援計画に沿って健康や精神面での支援等個々に必要とされる支援を行いました。また、相談を受けた際には傾聴し、生活環境に携わる家族や関係者と連携を取ることで様々なケースの問題解決に当たりました。

### 食事の提供

食材配食サービスを利用し、専任栄養士が作る栄養バランスの良い食事を提供しています。常に衛生管理には細心の注意をはらい、手指・食器類の消毒等に努めました。時には利用者様の嗜好調査や希望を取り入れたバイキング・選択メニューの提供、また季節に応じたメニューづくりを行い、毎日の食生活の潤いや楽しみになるよう努めました。

### 健康管理（バイタルチェック、服薬見守り）・入浴・排泄・食事の介助

新型コロナウイルスの感染症対策は体温と体調変化の注視、通院・外出時のマスクの着用及び帰所した際にはうがい・手洗い及び手指消毒を励行する事としました。また、インフルエンザ予防接種は職員・世話人・利用者全員が行いました。

毎朝起床後の体温測定、入浴前には体温・血圧の測定等と並行して、全身の怪我や皮膚の状態を観察し、異常があれば迅速に対応いたしました。健康状態の把握と確認、また服薬の介助、薬の管理も行いました。体調不良時には、保護者と確認の上、入院・通院(受診、薬の受け取り)居室での静養等の支援、排泄記録を付け確認することで、身体のリズムを把握しながら対応しています。

### 金銭管理に関する支援

利用者自身が金銭管理することが困難な場合、依頼に基づき、事業所がその管理を代行しました。利用者の私物の購入や外食代などの支払いがあった場合、無駄使い等に気を配りながら管理しました。

### 余暇活動の支援・休日・奉仕・余暇

安定した運営、充実した支援に取り組み安全に生活できる環境作り、安心感のあるホームの生活づくりにも努めました。その中で衣類・生活用品の整理整頓を利用者と共に行いました。

地域奉仕活動としては、JR穴山駅舎・穴山郵便局周辺の清掃活動を、ケアホーム利用者、職員、世話人の方々が中心となり行いました。

余暇活動としては、新型コロナの影響で穴山の里太鼓クラブの活動や練習は全て中止とし、活動再開に向けて個人練習に切り替えました。

休日には、単独外出ができる利用者については、必要に応じ公共交通機関を利用した買い物などの外出計画を立てるようにアドバイスし、単独外出が困難な利用者については、職員が同行し本人の嗜好に合わせた買い物ができるようアドバイスを行うなど、「出来ること」を増やす支援を行っています。

### 日常生活に係る援助（入浴準備・洗濯・掃除・配膳）

基本的には、職員見守りのある中で用途に合わせて行い、繰り返しの声掛け、助言等を行ってきました。また、新型コロナウイルスの影響で屋外での活動が計画できない状況でしたが、グループホーム内で食事やおやつ作りを行い、必要に応じ一緒に行う事で本人の生活意識を高めるよう支援しました。

### 3.保護者・関係各所との連携

個別懇談、電話相談等により利用者及び保護者との信頼関係を築き、個人の処遇についてきめ細やかな支援を実施いたしました。

新型コロナ禍の中で帰省を行うことが出来ませんでした。グループホーム内で感染予防対策を取りながら余暇の充実を図り、保護者の方々には写真や文書にて近況報告をさせていただきました。

地域との交流関係、他事業所、保険、医療、福祉サービスとの連携を取り総合的なサービスに努めました。

3月には〈在宅介護 やさしい手〉と協定書を結び、障害福祉サービスの充実、介護保険サービスへのスムーズな対応に向けた取り組みを行いました。

### 4.業務報告

毎月1回、職員5名、世話人（9名）の参加による報告会を開催し、ホームから利用者状況報告、業務収支状況報告・日中活動先からの

状況報告・施設研修を行い、業務運営・資質向上に努めております。  
各ホームからの利用者状況報告に基づいて、ケース会議や巡回等も定期的に行い、世話人との意見並びに情報を交換し、相談・協力し合える風通しの良い環境作りに努めてまいりました。

<動く！！知る！！伝える！！>学ぼう障がい・広げよう交流と銘打ち、  
【事業所交流体験】を行いました。障害サービス3事業所（穴山の里・わ〜く穴山の里・共同生活事業）職員が法人内の異なる障害サービスを知ることによって事業所の目的や役割を理解し、他事業所の職員と交流を持ち色々な考え方を知ることができました。令和3年度も継続して行っており、支援の質の向上に向けて取り組んでいきます。

#### 来年度への課題として

利用者支援に関しては、継続して一人ひとり個別の生活環境を重視した支援を行ってまいります。また利用者様の高齢化・重度化に対応し地域生活の継続及び施設からの地域移行への促進、地域生活支援の中核的な役割を担うことが期待されている<日中支援型グループホーム>の整備が求められている実情を踏まえ、利用者様のニーズに応える環境設定の構築に努めてまいります。

## 令和2年度 共同生活事業 主な出来事

月 日	出 来 事
4月 1日	辞令交付式
4月 9日	GHCH会議(職員5名・世話人9名出席)
4月20日～	夜勤者健康診断
5月 8日	GHCH会議(職員5名・世話人9名出席)
5月 9日	くぼでら荘避難訓練(職員2名 利用者4名)
5月14日	ケアホーム宿尻避難訓練(職員2名 利用者7名)
5月27日	あなやまハイツ・第2あなやまハイツ避難訓練実施(職員2名 利用者7名)
5月28日	ケアホーム宿尻利用者：男性1名逝去
5月29日	かやの木ハイツ避難訓練実施(職員2名 利用者4名)
6月 5日	GHCH会議(職員5名・世話人8名出席)
6月30日	あなやまハイツ利用者：女性1名 介護保険サービスへ変更
7月 9日	GHCH会議(職員5名・世話人9名出席)
7月 1日 ～31日	宿泊体験実施 GH男性利用者5名・女性利用者3名 穴山の里男性利用者1名
7月31日	日中サービス支援型共同生活援助 ボヌール(南アルプス市)施設見学
8月 6日	GHCH会議(職員5名・世話人9名出席)
8月14日	ミニ夏祭り(於：ケアホーム宿尻内)
8月27日	穴山ハイツ利用者1名・かやの木ハイツ利用者1名 GH間居室移動
9月10日	GHCH会議(職員5名・世話人9名出席)
9月17日	第2穴山ハイツ利用者1名 ケアホーム宿尻へ居室移動
10月7・8日	健康診断
10月 9日	GHCH会議(職員5名・世話人8名出席) 内部研修(血圧測定について)
11月 4日	インフルエンザ予防接種(高齢利用者)
11月 5・12日	インフルエンザ予防接種(職員)
11月12日	GHCH会議(職員5名・世話人7名出席)
11月20日～ 12月16日	穴山ハイツ・第2穴山ハイツ外壁工事
12月10日	GHCH会議(職員5名・世話人9名出席)
12月22日	山梨文化学園モノづくり研修(職員3名)
12月22日 ～1月18日	韮崎市観光協会合同 サンクスフェスタ・韮崎参加
12月24日	クリスマス会
1月 1日	ケアホーム宿尻利用者1名・第2穴山ハイツ利用者1名 GH間居室移動
1月14日	GHCH会議(職員5名・世話人8名出席)
1月19日	障害3事業所合同 事業所交流体験(1回目)
1月22日	穴山ハイツ・くぼでら荘 ガスストーブ設置
2月12日	GHCH会議(職員5名・世話人9名出席)
2月14日	韮崎市商工会議所主催 まちゼミ参加(清水屋旅館)職員2名・利用者2名

2月15日	障害3事業所合同 事業所交流体験（2回目）
2月17日	自立支援協議会研修部会 ZOOM研修 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて～協議の場の活用」
2月24日	菟崎市商工会議所主催 まちゼミ参加（清水屋旅館）職員2名・利用者2名
2月28日	菟崎市商工会議所主催 まちゼミ参加（清水屋旅館）職員2名・利用者2名
3月 2日	障害3事業所合同 事業所交流体験（3回目）
3月10日	GHCH会議（職員5名・世話人7名出席）
3月16日	障害3事業所合同 事業所交流体験（4回目）
3月26日	在宅介護やさしい手 協議書締結
その他	利用者外出 単独：月1回 付き添い：月1回
	散髪（M&R）美容院：2か月に1回
	穴山駅舎・穴山郵便局清掃：月2回（ケアホーム宿尻利用者・職員・世話人）

## 令和2年度

### 特別養護老人ホーム 穴山の杜事業報告

#### 法人運営方針

真の福祉を追求していこう

#### 事業運営方針

家庭での暮らしの継続を！

24時間シートを基本とし、利用者に住み慣れた家庭での暮らしを提供する

業務の見直し・改善で介護のマンネリ化を防ぎ、入居者に生活の楽しさ、喜びを提供する

#### 事業目標

##### 5つのゼロ

当たり前の人らしい生活を最後まで支える

##### オムツゼロ

身体状況により2名はベッド上でのパット交換だがその他の入居者はトイレ、又はPトイレでの排泄ができていますので定着している

##### 機械浴ゼロ

家庭的なヒノキ風呂で温かみのある快適な入浴を提供し機械浴槽での入浴ゼロを目指したが身体状況で2名は機械浴を継続しているヒノキ風呂の入浴は好評で利用者に喜ばれている

##### 拘束ゼロ

利用者の尊厳を尊重した身体拘束ゼロを実現している

身体拘束だけでなく言葉での拘束（スピーチロック）解消に取り組んでいる

##### 脱水ゼロ

水分摂取量1日平均800cc～1500ccで身体機能の維持を図る

利用者の嗜好に沿った飲み物の提供することで必要な水分が摂取できており脱水による体調不良を防止している

## 下剤ゼロ

水分摂取、規則的な生活、機能訓練等を行うことで下剤を使わない生活の実現し自然排便につなげている

## 委員会活動

全員参加の委員会活動を通して運営目標の達成、委員会目標の達成を図る

### ◎ 介護力向上委員会

介護の基本となる 24 時間シートについて使いやすさ留意点等について他社の事例等を参考にして研究、改善について進めている  
ユニットケア、オムツゼロ、認知症のケア等についての取り組みを行っている

### ◎ 安全衛生委員会

施設内の感染症の予防、対策 発生時の対応訓練等を実施して施設内でのインフルエンザ、コロナウイルスの感染を防ぐことが出来た

### ◎ 介護事故、拘束、虐待防止委員会

身体機能が低下した利用者の事故防止のための活動を推進し介護ロボを導入したことでまだ事例は少ないが事故の低減につながっている  
1年間の発生状況については別紙

### ◎ 接遇、レク、環境整備委員会

入居者、家族、職員間の礼儀作法の徹底を図るため業務引き継ぎ時に委員会で決めた目標を斉唱して意識を高めている  
入居者生活のマナー化防止のレク活動を定期的に行い気分転換を図って利用者に喜ばれている

## 介護ロボット活用の推進

見守り機器を11月に40台導入 効果について介護ロボ運営委員会で確認中、職員の業務負担軽減（特に夜間業務）を実現する

## 職員研修の推進

喀痰吸引資格研修受講 座学と実務演習を7名の受講が終了している  
外部研修への参加についてはコロナ問題ではほとんどの研修が中止となってしまった

# 令和2年度

## 穴山の杜 短期入所生活介護事業所 事業報告

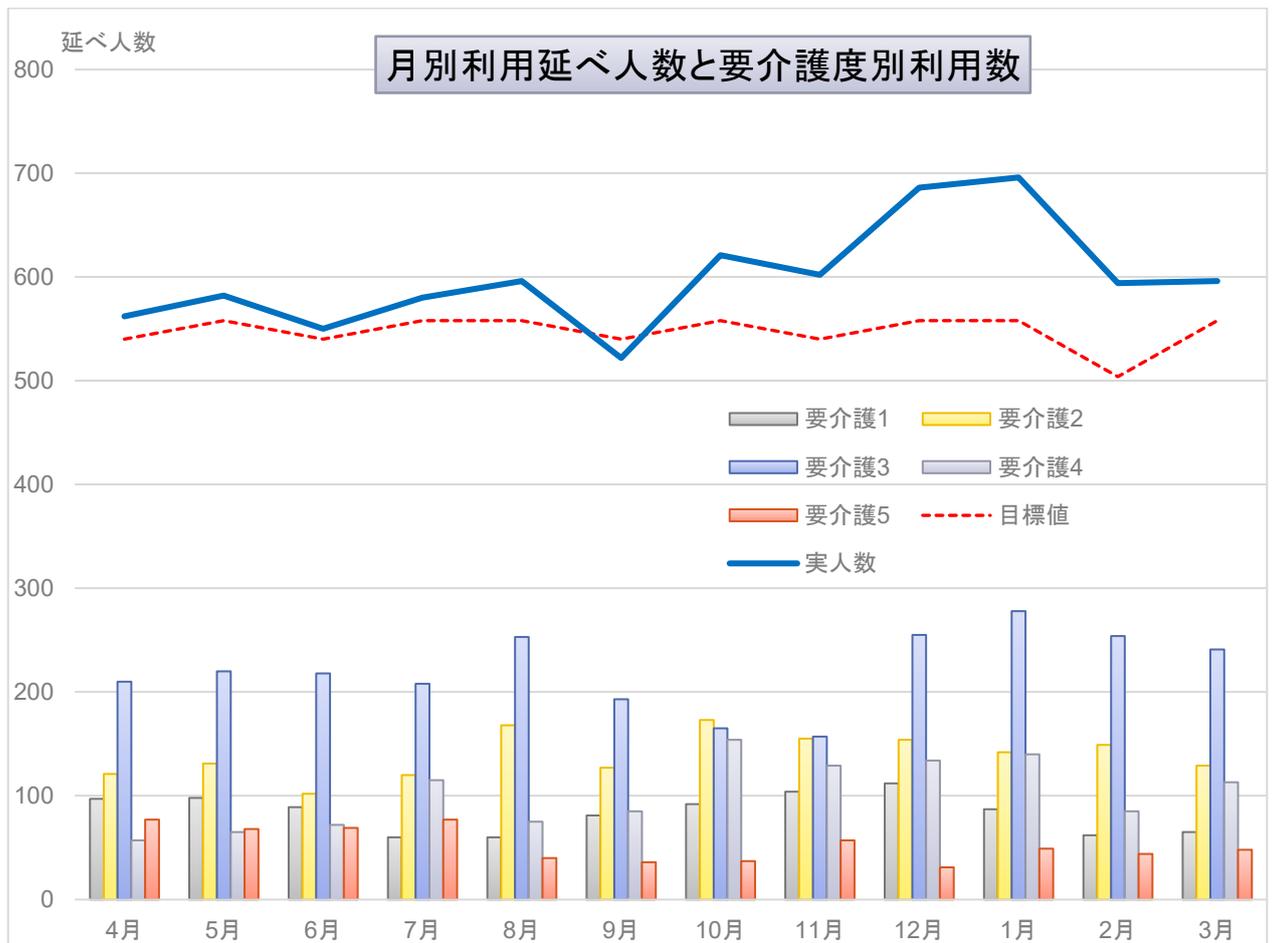
### 1 はじめに

コロナ禍ではありますが、いかに安定した利用に繋げていくか、地域の方に安心して利用していただけるか、また障がいの分野へも門戸を広げていけるか取り組んで来ました。

### 2 今年度の実績

#### ① 安定した利用の確保（地域ニーズの情報収集と地域との連携）

昨年度同様利用に関しては、年間通して90%の利用率を目指して行ってきました。9月に若干下回った以外ほぼ毎月目標値を上回り、冬場は目標値よりもかなり高い数値となりました。年間平均利用率は98.5%と数値的に目標を達成することができました（下記グラフ参照）。



地域の方にも十分施設を知って貰うことができ、平成28年の開所から徐々に信頼を得ながら現在の利用にも繋げることができており、それが安定した利用へと結び付いているように思います。

今年度は行き場のない高齢化が進む障がい者の受け入れもでき、対応に苦慮する場面もありましたが、入居施設へ移行することもできました。行政の協力も得ながら障がいから介護保険という一つの道筋を作ることができ、一歩前進できたように思います。

② 福祉サービスの質の向上（職員資質の向上）

目標管理シートに関しては継続して取り組むことができていますが、内容については個人差があり、それを指導するまでには至りませんでした。

また利用者を支援していく中で、一定のレベルでの知識習得も必要でありましたが、それに関する研修や勉強する機会を作ることができませんでした。

3 反省および今後の課題

日々利用者を一生懸命受け入れ支援していること、『穴山の杜 短期』の独自の色、利用者自身の個を大切にしていけるケアが、地域においても大きな評価へと繋がっていることは、昨年度から感じていることであります。それについては今後も大切にしていきたいと思っております。

施設内で発揮している職員個々の力も、介護という大きな世界から見ると、専門的分野の力があるかという点で毎日の忙しさに紛れてしまっている部分があります。今年度よりも少しずつでも職員全体がさらに向上できるよう努めてまいりたいと思っております。

## 令和2年度

### 穴山の杜短期入所生活介護事業所

#### 主な出来事

日付	内容
4月1日	開所記念
28日	第三者委員来所
29日	おやつレクリエーション(チョコバナナ作り)
5月26日	おやつレクリエーション(ヨモギ饅頭作り)
6月8日～	ベランダスロープ設置工事
15日～	職員腰痛検査
30日	おやつレクリエーション(五平餅作り)
7月1日	防災訓練
22日	おやつレクリエーション(パフェ作り)
28日	第三者委員来所
8月3日	防災点検
26日	おやつレクリエーション(ピザ作り)
9月11日	浄化槽清掃
17日	浄化槽点検
	おやつレクリエーション(クレープ作り)
22日	敬老の日お祝い会
10月7日	職員健康診断
15日	おやつレクリエーション(たこ焼き作り)
27日	第三者委員来所
	菟崎市SOSネットワーク訓練
11月24日	おやつレクリエーション(おやき作り)
12月24日	クリスマス会
1月11日	鏡開き(お汁粉)
12日	レクリエーション(繭玉作り)
26日	おやつレクリエーション(お好み焼き作り)
3月2日	第三者委員来所
25日	夜間想定防災避難訓練

## 令和2年度

### 相談支援事業所 さくら 事業報告

#### 1 令和2年度の行政動向

「コロナウイルス」の流行により、様々な部分で支障が出た一年でした。行政との関わりの場も一時は縮小し、定例の会議も中止することが常となりましたが、少しずつ世間の事情も変わり、感染予防を徹底した中で人数等制限をかけながら、今では通常の会議に戻りつつあります。

それでも研修は「ZOOM」を使ったものに代わり、時間も制限された中で行なうため、お互いに熱く意見交換できる時間もなく、客観的に聴講するのみで終わるものが主流となりました。

#### 2 「さくら」の実績（事業目標2点における報告）

##### ① 利用者の将来を見据えた方向性を関係者間で協議・連携…について

法人内で「障がい福祉サービス」を利用する方は入所施設・通所事業所・GH含めると80名近くおります。その中には65歳を超えた方も数名おり、「介護保険」への移行か、現状の「障がい福祉サービス」を利用継続か…と考える一年でもありました。

GHなど地域で生活されている方は具体的に「介護保険サービス」を利用したことで、担当となるケアマネージャーも配置されました。そして将来的なことを協議する機会を必要に応じて何度か設け、時には行政にも協力を仰ぎ、結果として介護施設へと移行された方が2名おりました。

しかし入所施設を利用している方が介護施設へと直接移行することは法律上難しいこともあり、入院などで施設を離れる期間が3ヵ月を超えて初めて次のステージを考えるという流れなので、2年度においては特にそのようなケースは発生せずに終わりました。

##### ② 他職種との連携強化…について

「コロナ禍」により、事業所側でも新規利用を見合わせる傾向にあったため、今期新たに担当した人数は9名と少ない年でした。

しかし当初から関わってきた方の中にも「コロナウイルス」により、通常通りのリズムが取れず、精神的に揺れて体調を崩す方も多くあり、時には精神科病院に入院する方、周囲に当たり散らして事業所の継続利用が難しくなった方など、様々な事案がありました。

そして時には利用する事業所だけで解決できないケースもあり、医療関係者・保健所にも相談をしながら年度をまたいで進めているケースもあります。

### 3 おわりに

令和3年度が始まり、新たな「報酬単価」がスタートしました。

今回の報酬単価から読み取れることは「計画相談事業は他事業所との兼務ではなく、専従の相談員を増やして進めていくこと」です。

『さくら』は一人専従相談員のため、基準は確立しています。しかしその先に見える人数を増やして基本単価を上げる事業所加算の獲得には至れずにあります。そのためにも今年は「法人内に資格取得者を増やしていくこと」に加え、「圏域内の一人相談支援事業所との協働体制を検討していくこと」で、別の角度からの事業所加算獲得をも視野に入れながら、目の前の事案に向き合っていきたいと考えています。

以上

※事業開始当初から利用者 累計 227名  
令和2年3月末現在 利用者数 134名

#### 【内訳】 ( ) 内昨年度作成数

##### サービス等利用計画作成数

新規 8件 (9)

更新 64件 (74)

##### モニタリング作成数

単純作成 243件 (259)

更新時追加資料 64件 (74)

担当者会議加算 193件 (179)

医療情報提供書類加算 1件

サービス提供時モニタリング加算 (1ヶ月39件まで可)

468件 (468)

